

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 4年 3月 7日

事業所名 放課後等デイサービス 喜び

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○				静養室がうまく機能できていないので、集中して訓練が出来るように静養室の中の整備を行う。
	2	職員の配置数は適切である	○			人数、専門職種ともに考えて配置できている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			手すりやスロープがある。	
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○				
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			アンケートの内容を会議で結果を共有し、業務改善の意見交換が出来て	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○				
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		未実施
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			内・外部の研修に積極的に参加している。研修委員会があり、個人アンケートを取り、興味、意欲につながる内容の研修への参加の実施。	
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			気になったことなどすぐに話し合いができる雰囲気。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○				STの評価において、検査等を行い、検査結果を踏まえて支援に活用していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○				
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			担当を変えたりして、偏りがないようにしている。	毎月の定番になっている行事もあるが、そこに工夫し、変化を加えていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			月ごとの行事がたくさんある。	長期休暇の前には、職員間で利用者個々の課題や目標を決めておくことで、よりよい支援を行っている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		○		利用児童それぞれの記録や日誌には必ず目を通す。	長期休みなどは児童の早朝の受け入れなども行っておりなかなか難しい。通常の日には毎回実施できている。

関係機関や保護者との連携	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			帰りの遅い児童がいる場合は翌朝に行っている。	実施できているが、休みの職員の為にも日誌に残す内容を工夫していけたらよい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			支援記録に記載し、職員全員が目を通すことができ、自分が休みの日の状況がわかりやすい。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○				
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○				
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				児童発達支援管理責任者だけでなく、児童の担当者も参加していく。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○			ほとんどの学校でお便りをもらうなどして対応が出来ている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○				該当児童なし
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			こども園に見学に行き、様子を確認することができた。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○				卒業生がおられず実施していない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			報告書を必ず確認している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○				コロナの影響で難しい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○			こども部会や協議会主催の研修などには積極的に参	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			送迎時や玄関対応時に保護者とお話をして共有することに努めている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○				年1回ペアレントトレーニングの研修の受講や伝達研修を行い、支援の質の向上を目指していく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				

保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				その場で答えられなかったことは必ず事業所へ持ち帰り、情報共有をし、丁寧に説明や助言が出来るように配慮していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○		未実施。アンケート調査を行い、保護者会の開催を希望しているか確認をする。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			通信を毎月発行し、玄関にも掲示している。	
	35	個人情報に十分注意している	○				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			一人一人に合わせたコミュニケーション方法をとっている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		ミュージックケアの見学者等を受け入れた。	コロナの影響で難しい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○			マニュアルの改訂をし、再周知予定。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			避難訓練を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			定期的な研修が行われている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している			○		該当児童なし
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		指示書はないが、アセスメント時に必ず確認をして把握している。	医師の指示書はもらっていない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			ポストを作り、会議の際に共有し案を出し合っている。	